

序文

石の強弱（死活編）では、生き死にの要素としての「スペース（幅）」のお話をした。今回は、それを踏まえて、「石の強弱」を見ていくとする。

強い石とはどんな石？

図 1-1

強い石。それは絶対に取りられない石であり、このように二眼がきちりできている石は、なによりも強い石である。

黒 4 以下、右上の黒石周囲に白石が来ても、これ以上相手する必要はない。

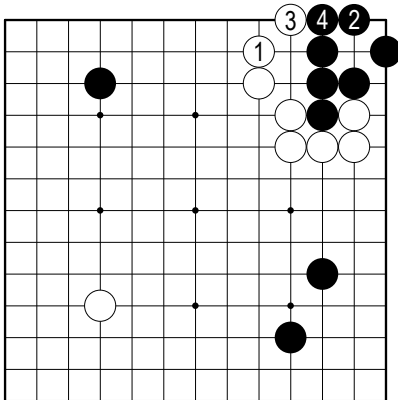


図 1-2

しかしながら、このような形というのは、黒 2 と一手入れた形であり、次の二つの観点で損をしている、と言える。

陣地： 黒地を 1 目減らしている

手番： 黒が生きてると仮定して、相手に影響のない一手を打っている。

←つまり、ほぼ一手パス

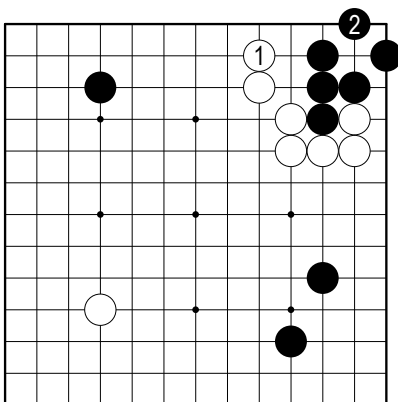


図 1-3

つまり、「二眼を自ら作らなくてはならない状況」は避けなくてはならないわけである。この状況を作る要素として「封鎖」がある。例えば、本図のように黒1の封鎖する手に対し手抜くと、生死に関わる状況（黒2と打たれると白の生死が危うい）だと、白2と手入れが必要である。前述の通り陣地と手番の観点で白に利がない。

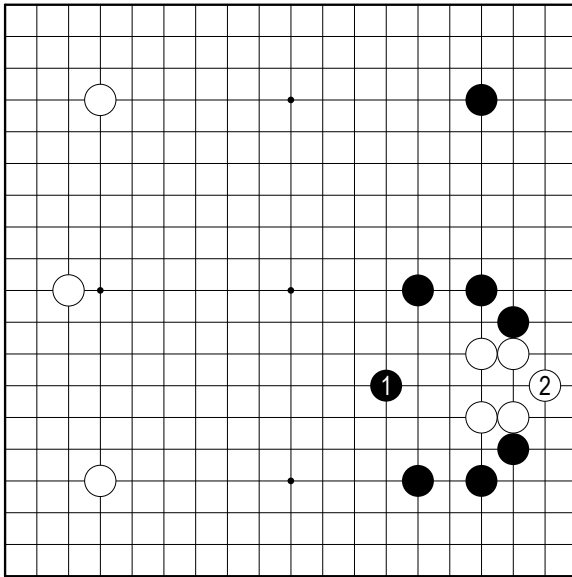
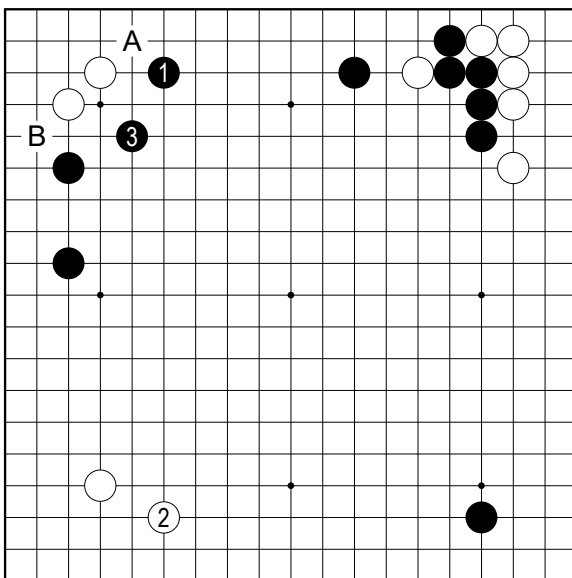


図 1-4

十分なスペースがあり、中からえぐるような要素がない形ならば、封鎖されても死ぬことはない。ただし、AやBの2線のコスミがほぼ必ず利く形（白が受けなくては行けない）だと言える。



Minimum Essence

- ①生きている石は強い
→周囲に石が来ても受けなくて良い
- ②封鎖されると、手入れが必要ことが多い（特に序盤）
→封鎖されてはいけない！

石の強弱の相対比較

競り合いになると、お互いの石が生きていない状況になりやすい。
では、その場合どのように石の強弱を比較すれば良いのだろうか？

今まで出てきた要素をまとめてみると....、

①相手から打たれても二眼を作るスペースがある→生きている

cf.) 「石の強弱 (死活編)」

②封鎖されると手入れが要→効率の悪い手入れをしなくては生きていない

cf.) 前述 (図 1-2 など)

この二つを考慮すると、以下の二つの要素が重要なキーワードと言える。

①スペース

②封鎖

ただ、これでは主語が一致していないので、それを修正し表現を合わせると...

①幅 (スペース)

②高さ

では、この二要素を具体的に見てみよう。

図 2-1

3子局黒番。黒 12 のハサミに対し、白 13 と一間トビした局面である。
さて、ここで黒はどのように考えて、次の一手を決めるべきだろうか？

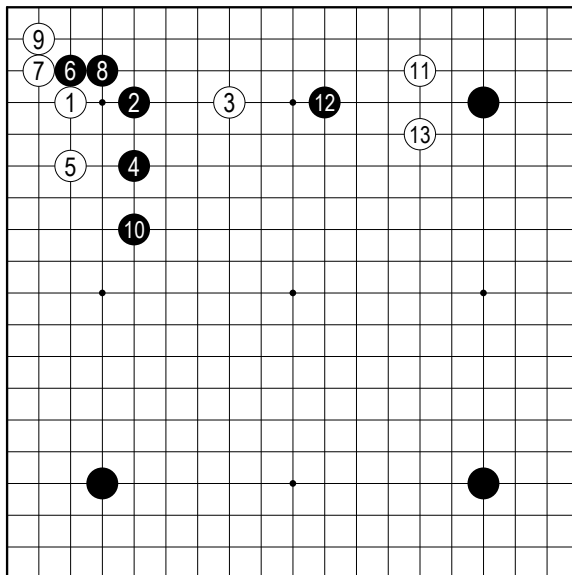


図 2-2

高さと幅で見てみよう。それぞれの集団を単体で見るとこうなる。

A：幅はないが高さはある（封鎖されるのに時間がかかる）。

B：幅も高さもない

C：幅も高さもない

D：幅はないが高さがややある

E：幅も高さもない（ただし隅の石なので根拠を確保しやすい）

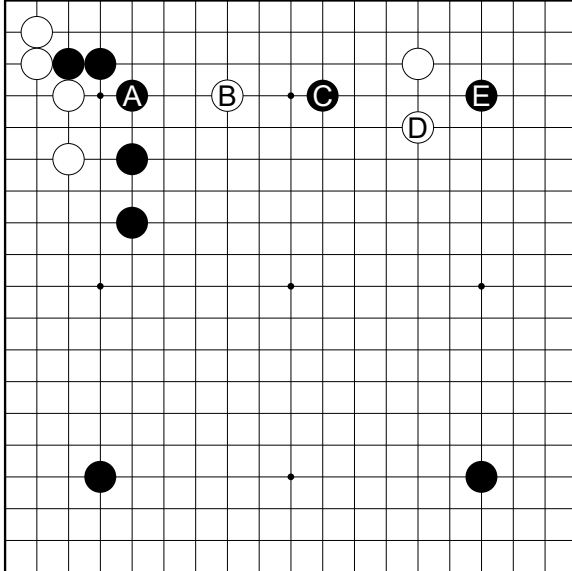


図 2-3

隅は根拠が確保できるから辺を優先（黒1）するのは、間違いである。

白2に黒3と受けたのち、上辺の白を放置して右辺に展開することができる。

のちに白Aのスベリも残っており、上辺にできる黒地は石数に見合っていない。

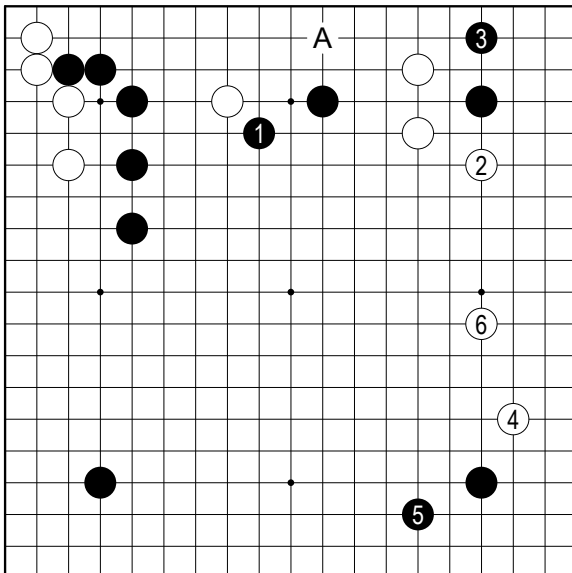


図 2-4

今度は**関係性**も含めて、もう一度辺の黒石（黒 C）を中心に一つ一つ見直してみよう。黒 C は幅がないので、封鎖されること（高さがなくなる）を一番警戒することになる。白 B と白 D を用いて封鎖することになるが、それが可能かどうか？（※ 1）

- 封鎖が可能（高さを確保できない） → 黒 C の動き出しを優先すべき
- 脱出が可能（高さを確保できる） → 黒 C は優先しなくても良い

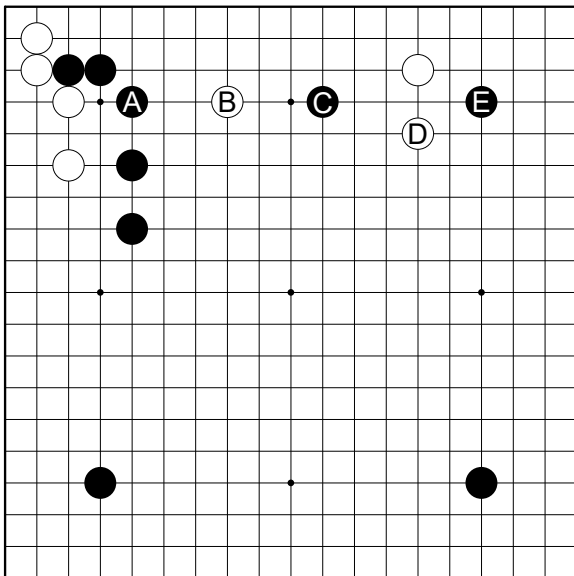


図 2-5

黒 A と黒 C がモタレ攻め（本来の攻めの対象とは異なる場所に石数を増やし、後の攻めの効率を上げる方法）やカラミ攻めにされる（両方が一度に標的になってしまう）可能性があり、かつそれが致命的であるか？（※ 2）

- 可能性が高い → 黒 A や黒 C に対するケアが必要（もしくはそれ以前の問題）
- 可能性が低い → 黒 A や黒 C を優先しなくても良い。

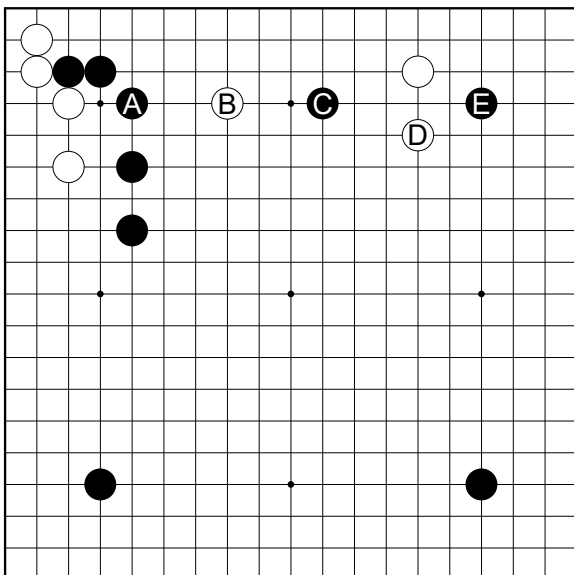


図 2-6

今度は黒 E について見てみよう。

黒 E は幅もなく高さもない。白 D により封鎖される可能性があるか？ (※ 3)

可能性が高い→黒 E の動き出しを優先すべき

可能性が低い→黒 E は優先しなくても良い

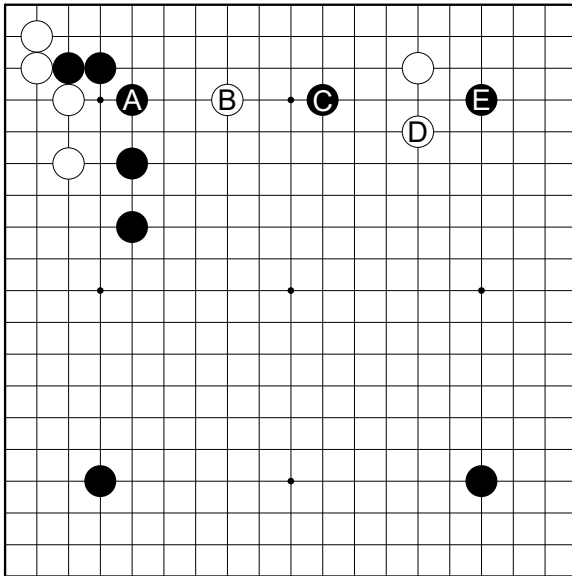


図 2-7

黒 C と黒 E がモタレ攻めやカラミ攻めにされる可能性がある、かつそれが致命的であるか？ (※ 4)

可能性が高い→黒 C や黒 E に対するケアが必要 (もしくはそれ以前の問題)

可能性が低い→黒 C や黒 E を優先しなくても良い。

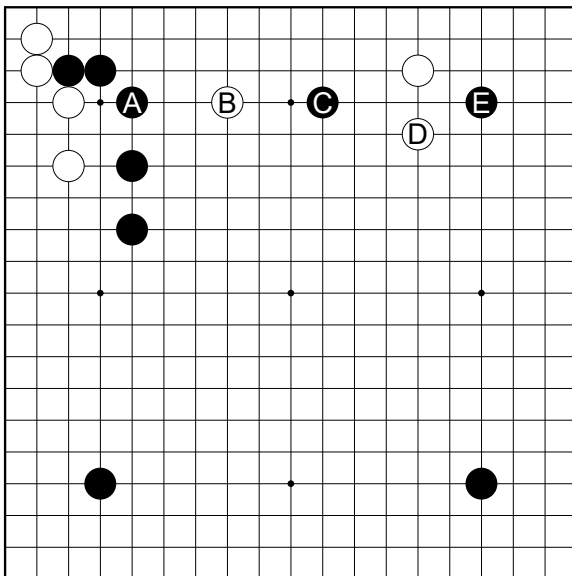


図 2-8

さて、整理できたでしょうか。

解答を提示します。

- ※ 1) 脱出が可能 (図 2-9、図 2-10 参照)
- ※ 2) カラミ攻めの可能性が低い (←黒 A が弱くないため)
- ※ 3) 封鎖される可能性が高い (図 2-8)
- ※ 4) 可能性が高い (黒 C も黒 E も現在弱いため)

※ 3 が一番の優先事項になる。図 2-3 でも示されてるが、隅は根拠が確保できるから辺を優先 (黒 1) する
 白 2 と打たれると黒△が封鎖され、生きるために根拠を確保しなくてはならない。

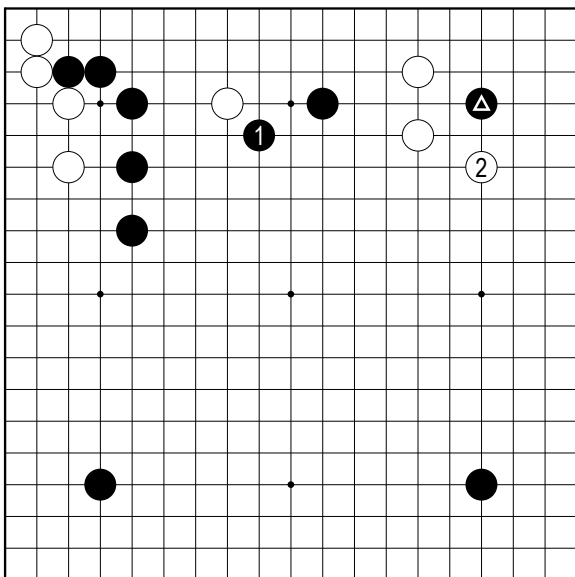


図 2-9

ということで、黒 1 と受けるのが正しい。

白 2 と封鎖してきたとしても、黒 11 まで黒 A, B が見合いで上辺の黒は高さを確保できる (安全である)。もし黒 A が打てれば、逆に白 4 の集団を封鎖することが可能となり、白は幅を確保せざるを得ない状況となる。

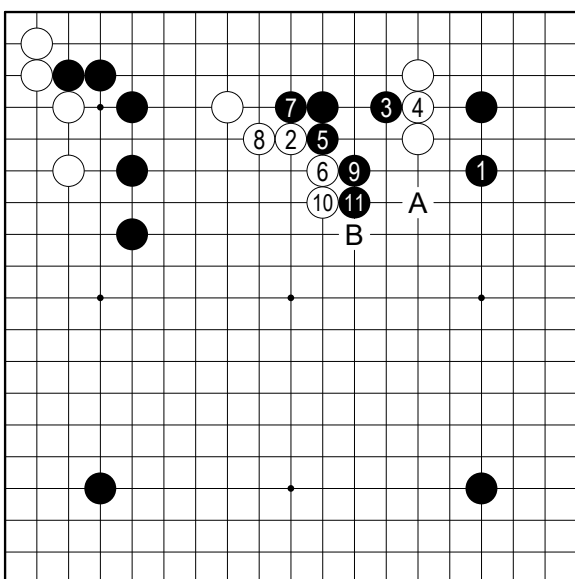


図 2-10

逆に白 2 とボウシしてきても黒 17 まで黒は高さを確保でき、黒 19 までで白 14 の集団を封鎖することができる。

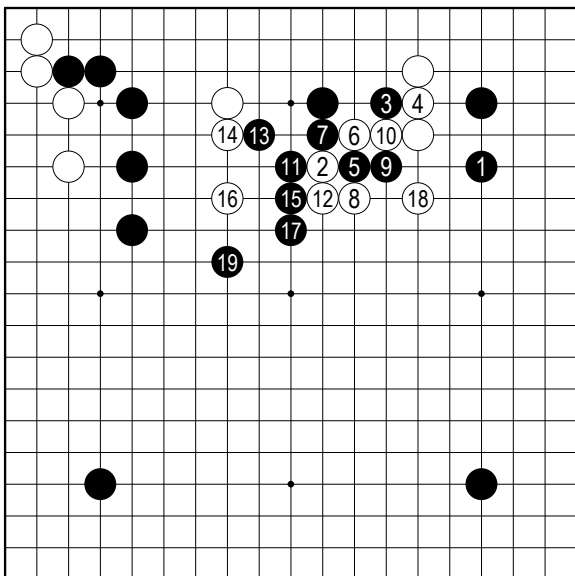


図 2-11

他の白からの仕掛け方として、白 2 の肩ツキがある。これにより黒 13 まで黒は高さを確保できる。

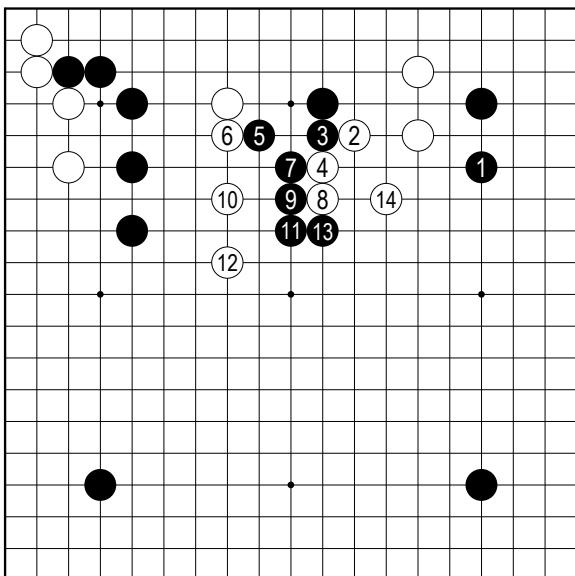


図 2-12

続いて、上辺左側の黒の集団が封鎖される可能性がでてきたので、一例だが黒 15 から黒は高さ確保しつつ幅を確保する足がかりを作るところである。

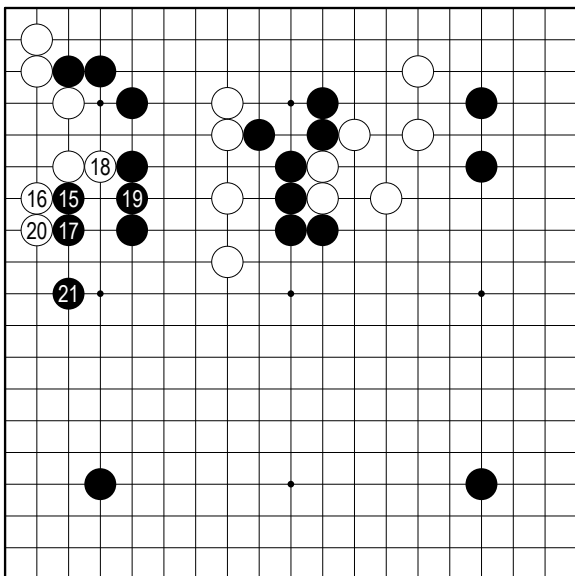


図 2-13

しかし、図 2-2, 図 2-4~2-8 に示したように強弱について細かく分析するのを繰り返すのは、あまりにも実用的ではない。
 ということで、**簡易判別方法**である定理を一つ新たに提示する(なお導出過程は割愛)。

定理 1 : 「弱い石の隣にある弱い石は、弱くない」

黒 C に着目して見ると、

- ①黒 C は高さも幅もない=弱い石
- ②黒 C の隣は、白 B と白 D。→明らかに白 B が黒 C 同様に弱い石
- ③白 B が弱い石である限り、黒 C はどうにかなる
 → 「弱い石の隣にある弱い石は、弱くない」

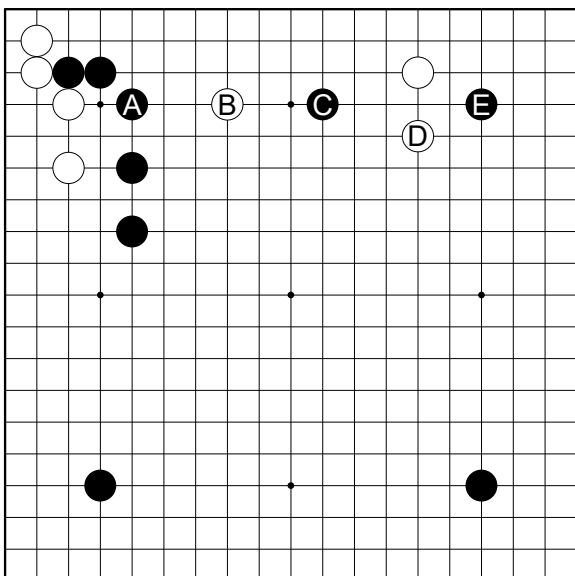


図 2-14

今度は黒 E に着目して見よう。

黒 E の隣の石は白 D。

どちらも幅がない石だが、高さは白 D > 黒 E

→白 D の方が明らかに強い。

ということで、図 2-13 でのお話を合わせて考えると、黒 E の補強が最優先となる。
よって、黒 1 が正しい。

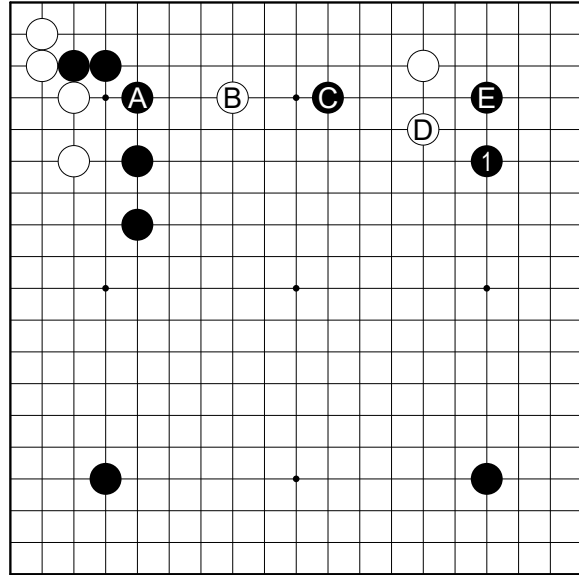
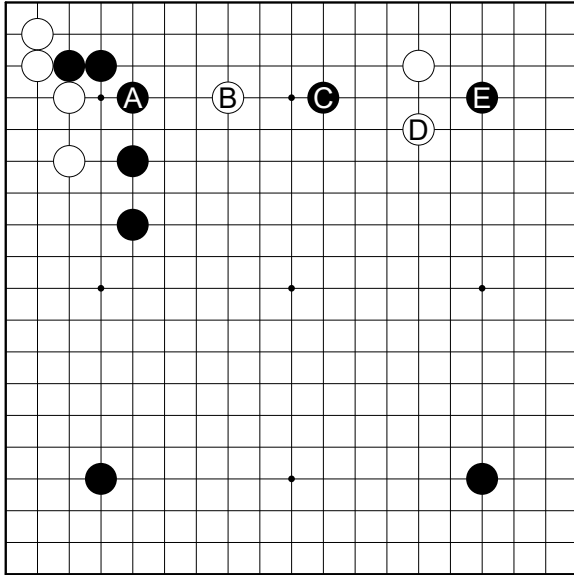


図 2-15

「弱い石の隣の弱い石は弱くない」

この定理で気をつけないといけないのが、弱い石ではなくなるパターンである。

今回、黒 C が弱くない保証は「白 B の弱さ」による。

例えば、黒 3 と石が下に行き、白 B と白 D が一団となると、白が強くなる。

こうなると黒 C の一団が弱いことが如実に表れる。

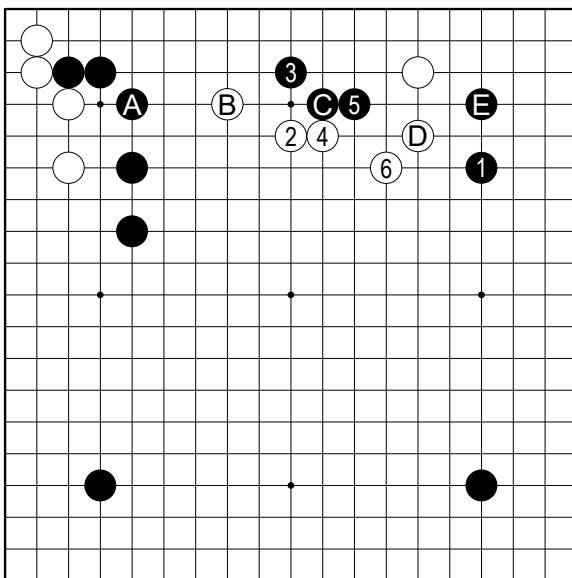


図 2-16

図 2-10 と図 2-15 を再掲する。このように見ると、図 2-10 では白が封鎖されることで、図 2-15 では黒が封鎖されることで周囲の石が強くなることが見受けられる。ここから、幅と高さにおいて以下の点に留意すべきことが考慮できる。

定理 2 : 「高さは相対的」

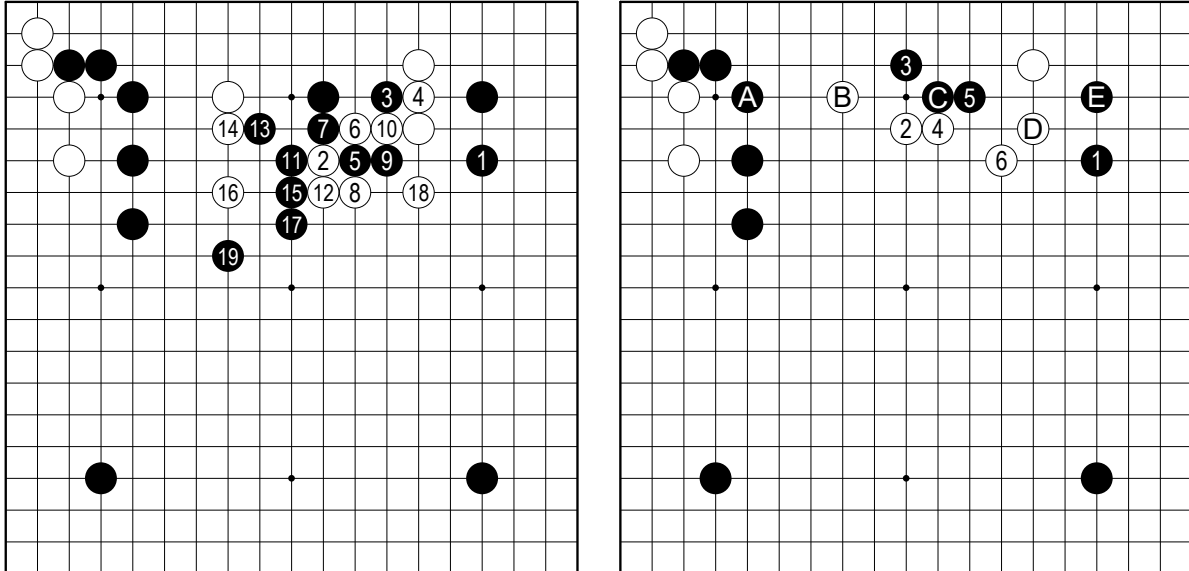
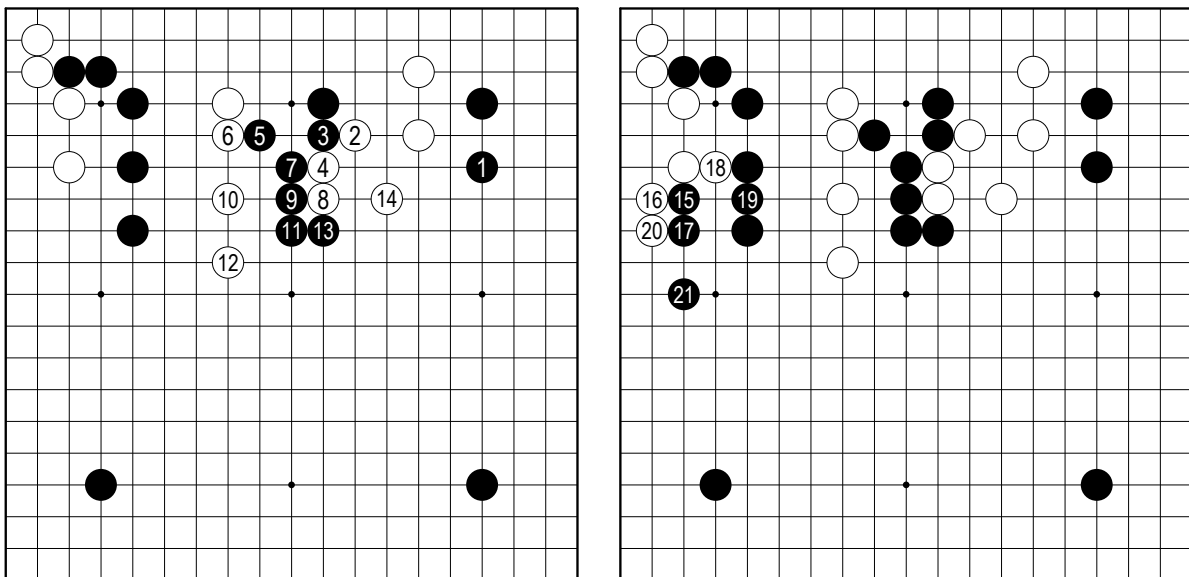


図 2-17

さらに図 2-11, 12 (再掲) の流れを見ると、定理 2 の要素が出てきている。図 2-11 のワカレにより白 6 の集団が高さを持つようになった。これにより**相対的に**左上の黒の一団が高さを失ってしまった。なので、図 2-12 に示すように黒 15 以下補強に走るわけである。なお、中央の黒の一団は右上白の一団と同等 (以下) の高さであり、この関係が保たれている (もしくは別の相対的に有利な高さの関係を持つ) 限り心配しなくても構わない。



Minimum Essence

- ①相対的な「石の強弱」の要素は、高さと幅
- ②この相対的な強弱関係において、以下の二つの定理が成り立つ
 - 定理 1 弱い石の隣にある弱い石は弱くない
 - 定理 2 高さは相対的

β 版はここまでである。

以下の内容を後日新たに追加し、更新する。

(※日程は未定とするが、読者からの希望があれば早めに作成できるようにする)

内容

2章の追記

今回 1 サンプルで話を終わらせているが、もう 1 サンプルを追加する

「厚みに近づくな」に関する 3 章

厚みとは何か？

なぜ近づくな？（主語についても言及する）